



事業承継

おきなわ F B 短信 (11)

(1分間で読めます。)

平成 21 年 3 月 2 日 (月)

ある社長から、「自分の跡は先生が社長をして下さいね」と言って肩をたたかれたことがある。

今まで、考えてもみなかった事で一瞬どう答えていいか、どう考えていいか解らなくて頭の中が真っ白になった。

企業の事業承継ということについて、これまでかなりの相談を行って来たような気がするが、本当に顧客の立場で考えてはいなかったのだと思う。

考えてみると事業承継とは一体どういうことなのか。

- (1) それはある地位に就くことだけではない
- (2) 価値(金銭的、非金銭的)を預かることである
- (3) 企業歴史の一部を担当することである
- (4) 従業員の生活や経済の基礎を担うことである
- (5) 何かを残して、次に引継ぐことである
- (6) 継いで行く、見送る、見送ってもらうことである

ある著名な年配の消費者生活関係の専門家に、「先生、もう一頑張りして、沖縄の為、社会の為にやって下さいよ。どうせいつかは終わるのですから...」と失礼なお願いをしてご無理を言ったことがある。そうすると、先生が「でもねえ、山内さん。大分年もとって新しい人に譲るということもあるし、それに孫が可愛くて、息子にはそんな感情を持ったことは無いけれど。孫を見るとああ、夫と自分たちの未来がこの子に引継がれるのだ。人生の最後をこの孫と少しでも長く過ごしたい。それが承継だと思ってね。」と言われて、成程、継続することなのか。一生懸命に生きて次に承継されることに意味があるのかと感じたことがある。